

沖縄県理学療法士(協)会
代議員立候補者

定 数 : 6 名

立候補者数 : 5 名



氏名 小嶺 衛

都道府県士会 沖縄県

年齢 55

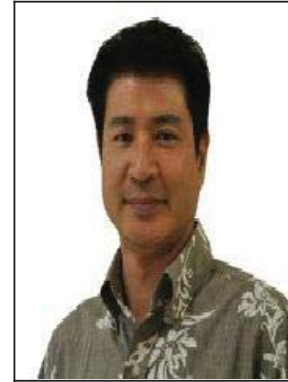
勤務先名称 ロクト整形外科クリニック

協会・士会役員歴

平成19～20年度	社団法人	沖縄県理学療法士会	理事	事業対策局長
平成21～23年度	社団法人	沖縄県理学療法士会	理事	副会長
平成24～27年度	公益社団法人	沖縄県理学療法士協会	理事	副会長
平成24～29年度	公益社団法人	日本理学療法士協会	代議員	(沖縄県選出)

立候補の趣旨

2025年問題に対し地域包括ケアシステムの構築へ向け大きく舵を取る必要がある社会情勢の中、職能団体である理学療法士協会としても公益法人として市町村レベルでの行政関係との密な連携が重要となる。またわが国の少子高齢化への加速は人口減少の社会変動へつながり、こうした近未来の社会情勢の劇的な変貌は医学界においても疾病構造の変化等様々な影響が予測され医療現場においてはその専門的対応の変化が強く求められることと思われる。こうした状況下、わたくしは沖縄県理学療法士協会役員として、そして日本理学療法士協会代議員として、会員の皆さまの職能拡大に対して、そして国民の皆さまへの適切な理学療法の提供等に対して、微力ながら出来る限りの力を注ぎたいと考え、今回公益社団法人日本理学療法士協会代議員へ立候補させていただく。



氏名 池城 正浩

都道府県士会 沖縄県

年齢 54

勤務先名称 翔南病院

協会・士会役員歴

平成9年度～12年度	社団法人	沖縄県理学療法士会	広報部長
平成13年度～14年度	社団法人	沖縄県理学療法士会	社会局長
平成15年度～20年度	社団法人	沖縄県理学療法士会	副会長
平成21年度～23年度	社団法人	沖縄県理学療法士会	会長
平成24年度～	公益社団法人	沖縄県理学療法士協会	会長
平成22年度～	日本理学療法士協会	代議員	

立候補の趣旨

社会保障制度の多様化、地域包括システムの構築に資する幅広い課題に対し、専門職への期待が求められています。国民の健康増進、疾病予防と改善、社会参加の支援と地域づくり、更に災害リハビリテーションへの対応を含め知識や技術向上に努めなければなりません。それを実現する上で、個人と地域社会の相互連携を強固にし、その役割を担う専門職として、理学療法士協会の発展に寄与したいと考えております。



氏名 立津 統

都道府県士会 沖縄県

年齢 52

勤務先名称 同仁病院



氏名 末吉 恒一郎

都道府県士会 沖縄県

年齢 44

勤務先名称 大浜第二病院

協会・士会役員歴

平成13年～平成18年 (社団) 沖縄県理学療法士会 事務局長
 平成15年～16年 日本理学療法士協会 代議員
 平成19年～平成20年 (社団) 沖縄県理学療法士会 広報部長
 平成21年～23年 (社団) 沖縄県理学療法士会 理事
 平成24年～ (公社) 沖縄県理学療法士協会 理事
 (事務局・地域厚生担当・社会局理事)
 平成22年 九州理学療法士・作業療法士合同学会 沖縄大会事務局長
 平成28年 第51回全国学術研修大会 学術局長

立候補の趣旨

昨今の医療・介護情勢の変化や、地域包括ケアシステム構築が叫ばれている中、理学療法が果たすべき役割の重要性を痛感しております。これまでの疾患別リハビリテーション以外にも、在宅リハ、がんリハ、糖尿リハ、介護予防、災害リハ、教育の領域等にも力を入れていく必要があります。さらに、理学療法士の質の向上の取り組み、政策を実現できる組織作りが求められます。その様な中、微力ながら本県理学療法の施策に寄与できればと考えております。

協会・士会役員歴

平成21年4月～平成23年3月 事務局組織管理部副部長
 平成23年4月～平成26年3月 表彰審査委員会部長
 平成26年5月～平成28年4月 社会職能局理事
 平成26年4月～平成28年3月 全国学術研修大会 in 沖縄実行委員会学術局副局長
 平成28年5月～現在 教育学術局局長
 平成28年3月～現在 日本理学療法士協会代議員
 平成28年4月～現在 九州理学療法士・作業療法士合同学会2018沖縄実行委員会学術局局長

立候補の趣旨

私は平成28年度から代議員を務めさせていただき、代議員総会への出席や協会理事会の議事録を読み込み、士会運営に反映させるように尽力してまいりました。士会においては、平成26年度から理事に着任し、社会職能局渉外部並びに地域支援部の担当理事として、理学療法を通じて、県民の医療・保健・福祉の増進に寄与するための事業に携わってきました。平成28年度からは教育学術局局長に着任し、主に、1. 新人理学療法士へのあるべき基本姿勢の理解や資質の向上、2. 理学療法士の専門分野における職能的水準の引き上げ、3. 自発的学習の促進を推進してまいりました。平成33年度4月からは、新生涯学習制度に改定される予定であります。今回の制度改定は、国民に対して基本的理学療法が適切に実践できる能力を有する者（暫定的にジェネラリスト（初級／基礎）と定義）を育成することで理学療法士全体の底上げを図り、その上に専門性の高い技能を有するスペシャリストが育成できるようなラダーを設定する事と示されています。さらに、これを実践するにあたっては、都道府県士会で主体的に担うとされています。この実現に向けて、新生涯学習制度の仕組みを会員に落とし込み、また会員から要望を協会に挙げていく事に尽力したいと考えています。その上で、当士会における事業運営に反映させ、会員への適切な学習機会を豊富に提供し、県民の健康増進に寄与する事に繋がるように、全うしていく所存です。



氏名 比嘉 俊文

都道府県士会 沖縄県

年齢 33

勤務先名称 沖縄こどもとおとなの整形外科

協会・士会役員歴

立候補の趣旨

「代議員」の大きな役割の1つは、日本理学療法士協会（JPTA）の「理事選挙の選挙権」です。前回の理事選挙からこの制度が導入されましたが、多くの会員が知らなかったことだと思います（私も当初、知りませんでした）。この選挙は、「私たちの未来」が決まる大切な選挙です。

JPTA理事の先生方が、法制度改正や、職域拡大、職能団体としての啓蒙活動など、理学療法士として働く私たちの、その未来を良い方向性へ導くために動いて頂いています。

今回の代議員選挙は、その理事を決める選挙に投票できる代議員を選出していくものです。いわば、私たち会員が参加・投票できる未来を決める選挙とも言えます。

これまでの諸先輩方の功績に敬意を表しながら、今後は時代の変化や、現場の声をより協会運営につながる役割を担いたく思っております。発展していく組織には新しい風を起こす若い力が必要です。循環サイクルが必要なのです。代議員として、少しでもその一翼を担えたら幸いです。私たちの未来を変えるあなたの大切な1票を大切によりしくお願い致します。